

Monthly Report

『全国初』仙南医療圏における 看護師養成・定着などに関する連携協定を締結



協定書への署名後に握手を交わす(右から)阿部学長、内藤院長、田村校長

7月14日(木)、本学LC棟を会場に、仙南医療圏における看護師養成・定着などに関する連携協定書調印式が開催されました。

この協定は、みやぎ県南中核病院、宮城県白石高等学校、仙台大学の三者間により、仙南医療圏における看護師の人材確保や看護師志望者の進路選択拡大、高大接続教育の新たな展開を趣旨としており、白石高校看護科(専攻科)修了後に本学に編入学し最短2年間で学位を取得後、一定期間みやぎ県南中核病院で勤務することを条件に本学での授業料を免除される仕組みになっています。

調印式で阿部芳吉学長は「今回の協定締結により、中核病院からは、本学での質の高い講義のための支援がいただける。また、専攻科を卒業した後に編入学してくる生徒さんにとっては、部活動等で幅広い人間形成が可能となり、進路選択の幅も広がってくる。更に、本学卒業後は県南中核病院で勤務することにより看護師不足解消の一助となればと考えている。」とあいさつ。みやぎ県南中核病院の内藤広郎病院長は「協定締結の成果が目に見えるようになるには数年の時間がかかると思うが、医療人の地産地消につながればと考えています。」と述べ、宮城県白石高校の田村至校長も「今回の協定書締結が生徒にとっての進路選択の突破口となり、進路選択の幅が大きく広がっていくことを期待したい。」とそれぞれあいさつされました。

宮城県の仙南医療圏における人口10万人に対する看護師従事者数は全国平均を大きく下回っており、看護師の確保や定着が急務の課題となっています。今回の協定締結により今後、仙南医療圏への看護師の増加や定着が期待されます。

〈目次〉

仙南医療圏における看護師養成・定着などに関する協定書を締結	1
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の学生が短期研修	2
リオデジャネイロオリンピック柔道競技壮行式	3
赤十字救急法救急員講習会を開催	4
校長就任祝賀会 新規採用教員激励会	5
日本スポーツ栄養学会 第3回大会参加報告	6
卓球日本代表 福原愛選手 仙台大学にサイン色紙を贈呈	7
学生の活躍	

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
 直通 0224 - 55 - 1802
 E-Mail kouhou@sendai-u.ac.jp

アメリカ カリフォルニア州立大学ロングビーチ校

11名の学生が仙台大学で短期研修

7月19日～29日までの11日間、アメリカ カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）の学生11名が本学を訪れ、短期留学研修プログラムが行われました。

期間中、留学生はマーティ・キーナート副学長による相撲や高校野球等、日本独特のスポーツ文化についての特別講義、村上教授や山口准教授による鍼灸体験、齋藤教授による剣道など、学内の多くの先生方のご協力を得て開講された特別講義に参加し、留学生はアメリカにはなかなかできない貴重な経験を重ねました。

また、今回のプログラムの中には、東日本大震災の被災地である亘理町の仮設住宅でのボランティア活動や、東北楽天ゴールデンイーグルスとベガルタ仙台のホームゲームの観戦などもあり、被災地の現状の把握や、プロスポーツにおける日米の違いなどをしっかり学んでいたようでした。

留学生の一人であるエマさんは「仙台大学の学生たちが庶民の和食文化である居酒屋に連れて行ってくれたり、授業以外でも今回の留学をサポートしてくれたりと、とても楽しく過ごすことができた。朝早くにたくさんの学生が駅まで見送りに来てくれて嬉しかった。また仙台大学に来たい。」と語り、今回のプログラムが大変充実したものになったようでした。

この研修は2013年から行われており、今年で4回目になります。プログラム内の講義や実習に海外興味がある学生や、実際に留学経験がある学生が自らの語学力アップや留学生のサポートを目的として一緒になって参加しているのも特徴です。受入れの回を重ねるごとに本学の学生による留学生に対するサポートも充実してきています。実際に、留学生との交流により自身が留学しようとするきっかけにもなるなど、双方にとって有意義な研修になっています。

〈報告：事業戦略室〉



ベトナム バクマイ病院ご一行が来学

8月22日（金）に、ベトナム保健省及びバクマイ病院リハビリテーションセンターの一行がJICA草の根技術協力事業（ベトナムでの足こぎ車いすを利用したリハビリモデル開発及び、リハビリ人材育成プロジェクト）の一環として本学を訪問し、研修が行われました。

研修では、トレーニングセンターや剣道の稽古の様子、体力測定バス等を見学し、ベトナムでのリハビリテーションで参考にできるか熱心に視察していました。学内の見学の後は、足こぎ車いすの研究を進めている関矢教授の講義と実習を受けられ、有意義な時間を過ごしていました。

〈報告：事業戦略室〉



リオ オリンピック・パラリンピック 柔道競技壮行式



（左から）阿部学長、南條監督、大槻柴田町商工会長

7/27（水）講道館大道場にてリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック柔道競技日本代表選手団壮行式が挙行されました。初めてのオリ・パラ合同の壮行式ということで、参加者も約300名といつも以上に盛大なものでありました。宗岡正二全柔連会長の挨拶にはじまり、馳浩文部科学大臣、竹田恒和JOC会長の来賓挨拶、橋本聖子日本代表団長他来賓の紹介、選手団の紹介の後、井上康生男子監督に引き続き、本学教授である南條充寿女子監督が挨拶をしました。南條監督は「絶対にひかないで最後まで戦い抜く」と力強く宣言していました。

会場にはたくさんの招待者が駆けつけ、リオ五輪における日本柔道への期待を強く感じました。本学関係者からは、阿部芳吉学長、大槻裕喜柴田町商工会長、南條和恵柔道部女子監督が参加し、柔道ファンの熱気を感じながら、南條監督をはじめとする日本代表選手団に熱い拍手を送りました。

リオ五輪の柔道競技は、8月6日から12日までの間に熱戦が繰り広げられ、本学でも8月11日（水）にLC等を会場にパブリックビューイングが開催されます。

〈報告：柔道部女子監督 南條 和恵〉

今年も熱中症予防プロジェクトチームが活躍！

仙台大学では日々1200名を超えるアスリートたちが、各々の練習場所で汗を流しています。毎年ニュースでは熱中症による死亡事故が相次ぎ、世の中の熱中症予防対策についての関心が高まっており、本学でもアスレティックトレーナー部の学生らを中心に、このほど「熱中症予防プロジェクト2016」を開始しました。

本プロジェクトの目的は、より多くの人に熱中症を知り、予防法や対処法を学んでもらうことで、さらに安全なスポーツ環境を作っていくことです。主な活動として、熱中症勉強会や日々のWBGT測定と危険度の提示を行っています。また、熱中症予防の啓発や、事故対応フローチャートのポスター掲示も活動の一つです。勉強会に参加してくれた各部の学生代表を通し、熱中症が発生した場合の報告も協力してもらい、本学での熱中症発生件数も集計できればと考えています。

プロジェクトリーダーの体育学科3年トレーナーコースの小畑和輝さんは、「本学の熱中症をゼロにし、熱中症が発生しても迅速に対応し、一人でも多くの命を救いたいと考えています。自分が高校生の時に熱中症で倒れた人がいても、その危険性も分からず、水分補給をしていれば大丈夫だと思っていました。今は熱中症に関する正しい知識があるので、少しでも多くの人に正しい知識を伝えていきたいと考えています。」と意気込みを語ってくれました。

熱中症は一般的に体力の低い高齢者や子供がなりやすいと言われていますが、スポーツ現場でも熱中症による死亡事故は毎年発生しています。独立行政法人日本スポーツ振興センターによりますと、平成27年度の学校管理下における熱中症発生状況は4400件に上り、その9割が体育・スポーツ活動中に起きたとされています。また、平成2年度から平成24年度の23年間に、80件もの熱中症による死亡事故が報告されています。ここで言う学校管理下とは、主に幼稚園から高校までの統計ですが、大学も含めば数はさらに増加するでしょう。

熱中症は防げるものです。正しい対応をすれば、誰もが人の命を救うことができます。このプロジェクトを通して、仙台大学熱中症死亡事故ゼロに繋げ、正しい知識が少しでも多くの人に伝わるよう、今後もプロジェクトを継続していきたいと思えます。

〈報告：新助手 鈴木のぞみ〉



WBGT計で測定するプロジェクトリーダーの小畑君

赤十字救急法救急員講習会を開催

平成28年7月2日（土）・9日（土）・10日（日）の3日間、本学学生18名が赤十字救急法救急員講習に参加しました。参加者はアスレティックトレーナー部、女子サッカー部、水泳部、アメリカンフットボール部、レクリエーション部と様々で、受講者全員が厳しい検定試験に合格し、救急法救急員の資格を取得しました。講習では心肺蘇生法（CPR）、AED、固定法、包帯法、搬送法、傷病者救出シミュレーションなど、幅広い内容を講義・実技で学びます。受講目的は様々でしたが、一番多く聞かれたのは「人の役に立ちたい」という想いでした。受講者のアスレティックトレーナー部佐藤健人さん（体育学科：1年）は次のように話しています。「スポーツニュースなどで、心室細動で亡くなる選手がいることを知り、自分も救急法を学びたいと思いました。私はアスレティックトレーナーを目指し活動しているので、今後スポーツ現場に出る機会はずっと増えていきます。万が一の際には救急員として自信を持って、適切な処置で選手の命を救いたいと思います。」

日本では年間7万人もの人が、突然の心停止を起こしています。学校現場における突然死は毎年約50件起きているとの報告もあります。全国的にAEDの設置が進み、本学内にも8か所に設置されています。しかし、事故の際のAED使用率が低いことが課題であり、使用方法を今回のような講習で学び、実際に練習する機会が求められています。救急車到着までにかかる全国平均時間は平成27年度で8.6分ですが、人が倒れてからの救命率は5分で一気に低下します。そのため、その場に居合わせた人のAEDによる迅速な対応が、その人の命を救うという事実をより多くの人に知っていただきたいです。最後に、仙台大学ATルームでは、スポーツを安全に行える環境作りに力を入れております。今後も本学での赤十字救急法救急員養成講習の企画を継続してまいりますので、より多くの方々に参加していただければと思います。

〈報告：新助手 鈴木のぞみ〉



講習会で心臓マッサージを行う受講者

夏季限定！放課後先生『仙台大塾』を開講



開講式であいさつする阿部学長

7月25日（月）、本学LC棟を会場に柴田町内の小学生、中学生約150人が集合し、『仙台大塾』の開講式が行われました。『仙台大塾』は、小中学生が夏休みの課題などを持参して本学で自学自習を行い、わからない問題などは本学学生のサポートを受けながら進めていくという初の取り組みです。

開講式で阿部芳吉学長は、「今回の『仙台大塾』は柴田町からトップアスリートを育てる仕組みづくりの一環。優秀なアスリートになるためにはまず、勉強や部活、人生の生き方を学ぶことが大切。8回の仙台大学での学習を通じて『体・徳・知』を習得してほしい」とあいさつ。船迫邦則柴田町教育長からは「一つ一つの努力は目に見えにくいかもしれない

が、努力を続ければ成果として目に見えるようになる。努力を怠らず、わからないことは学生の皆さんにしっかり聞きながら、一生懸命取り組んでほしい」と参加した小学生を激励しました。

また、参加した小中学生を代表し、柴田町立東船岡小学校6年の高橋 優太君は「学習会が楽しみ。期間中、これまで学んだ漢字や言葉の意味、歴史について確り復習しまとめていきたい」と意気込みを語ってくれました。

この取り組みは、本学と柴田町とが連携して進めている、柴田町トップアスリート事業の一環で開催されたもので、夏休み期間中に計8回開講される予定になっています。

校長就任祝賀会、新規採用教員激励会

第17回「校長職主任祝賀会」第6回「宮城県・仙台市新規採用者激励会」が7月30日（土）、ホテル白萩（仙台市）で開催され、約70名が校長就任と、教員への新規採用を喜び合いました。

今年度は第11回生の石森和義さん（石巻市立和渕小学校）、第15回生の植木薫さん（川崎町立川崎第二小学校）、第17回生の久世達也さん（仙台市立西山中学校）の3名の新たに校長職に就任されました。また、宮城県と仙台市の教員として31名もの卒業生が新規採用されました。

来賓を代表してあいさつした阿部芳吉学長は「これからも、世の中に素敵な子どもたちを輩出してほしいと思います。皆さんの頑張りを期待したいと思います。」と激励され、3名の新校長先生や、小中高校の教員として新規採用となった先生方からはそれぞれのあいさつの中で、仙台大学に対する熱い思いや、教育現場での益々の活躍を誓っていました。

それぞれの先生方の挨拶のあとは、第1回生の岩槻芳夫さんからのエールや、会場いっぱい輪を作った校歌斉唱など、会場は終始和やかな雰囲気でした。



大和町健康づくりプログラム

仙台大学が連携協定を締結している大和町で7月の延べ4日間、健康づくり支援事業が開催されました。

7月13日（水）には栄養プログラム、7月14日（木）には新体操プログラム、7月28日（木）には水泳プログラム、7月29日（金）には超元気いっぱいタイム（ニュースポーツの指導）と題したプログラムがそれぞれ行われました。

仙台大学と大和町は平成25年9月に連携協定を締結し健康づくり支援事業を進めており、昨年度から大和町立吉田小学校の児童を対象とした支援事業を毎月1回、仲野隆士教授と仲野研究室に所属するゼミ生の協力を得て、ニュースポーツ指導を実施しています。今回実施した4つのプログラムのうち3つのプログラムは、これまで仲野教授が実施してきた事業に併せておこなわれたもので、栄養プログラムは藤井久雄教授、渡部由佳助教、山上はるか新助手が、新体操プログラムは河野未来助教が、水泳プログラムは渡邊泰典講師がそれぞれ小学生に対してプログラムを実施しました。

参加した児童は、1つ1つのプログラムを考え・楽しみながら活動している様子が印象的で、時には出来ないのが悔しくて涙を流す児童もいましたが、次回のプログラムまで一生懸命練習している姿に心を打たれました。

今後もこの支援事業は継続される予定で、児童が少しでも運動する楽しさに気づくことを願い、努めてまいります。

〈報告：スポーツ健康科学研究実践機構事務室 石川 美香〉



（左上から時計回りに）栄養プログラム、新体操プログラム、水泳プログラム、超元気いっぱいタイム

日本スポーツ栄養学会 第3回大会 JSNA2016 参加報告

今年2016年、リオデジャネイロオリンピックパラリンピック開催の年、そして翌年には第72回国体を控えている松山市にて日本スポーツ栄養学会第3回大会が開催されました。

今大会は『飛躍するスポーツ栄養学 From 四国』をモットーとして開催されました。3日間のプログラムには、体の中からスポーツ栄養学を見る（診る・視る・観る）という切り口でシンポジウムや教育講演が盛り込まれていました。様々な観点から報告・発表がされる他、各企業の展示ブースが設置されておりました。更に、特別企画には阿波踊りをベースにした徳島県民健康づくり運動としての阿波踊り体操、伊予松山城を一周する朝のFun Walk などもあり、学術的な充実だけではなく、実際に体を動かし、楽しく学びを深め、共有する大会であったと感じました。本大学からは、岩田純准教授、早川公康准教授、平良拓也助教、三品朋子新助手、菊地遥新助手、山上はるか新助手、早田地翼さん（大学院生）が口頭発表を行い、それぞれが深めてきた研究内容を報告しました。

本学会にて、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部の鈴木志保子教授による講演では「スポーツ栄養マネジメントを理解しよう」という題材でした。公認スポーツ栄養士は、さまざまな角度で評価され、スポーツ栄養マネジメントのシステムに従ってサポート活動を遂行していくことにより、スポーツ栄養士自身も他者、（個人やチームなど）更には全体に対しても仕事の評価をすることができます。評価することにより、次のサポートや評価の質を向上することが出来ます。スポーツ栄養マネジメントが現場で確実に実施できる管理栄養士に公認スポーツ栄養士の資格を授与され、プロフェッショナルとして誇りを持って仕事をしたいと思わなければ、養成課程でのインターンシップや検定試験を突破できません。強い信念と情熱をもって欲しいと、未来のスポーツ栄養を担う人材に対してのあり方について講演されました。

本学、運動栄養学科に設立された運動栄養サポート研究会は今年で14年目を迎え、新たに導入された新制度も始動しています。今大会での様々な競技種目、視点から報告された内容には、本学

の研究会において更なる飛躍へと繋げるきっかけとなる内容が多々ありました。

本研究会では未来のスポーツ栄養士を目指している学生が集い、活動を行っています。近い将来、本学からも多くの成功例や活躍の場を広めていくために、私たち教職員も一丸となって全体を盛り上げていく必要があるのではないかと感じます。

スポーツ栄養学が世界中で期待が高まっている中で、『今のスポーツ栄養学にできることは？』『なにが託されているのか？』という視点も持ち合わせ、更に発展させていく意識を忘れてはいけないと強く感じた学会でした。

今回学び得た事を踏まえて、更なる向上心を持ち、運動栄養学科並びに仙台大学の発展に貢献できるように尽力して参ります。

〈報告：新助手 山田 大進〉

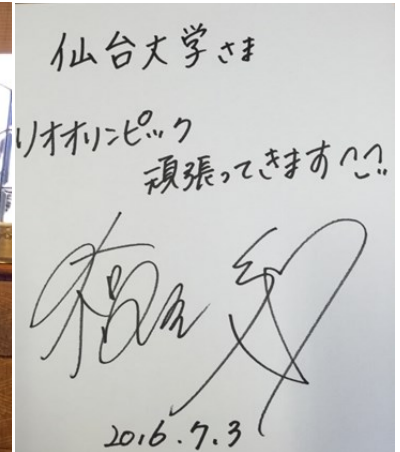


卓球日本代表 福原 愛 選手 リオ五輪の意気込みを書いた色紙を仙台大学に贈呈

リオデジャネイロ五輪に出場する卓球女子日本代表の福原愛選手と伊藤美誠選手が、7月1日～4日まで、仙台市青葉体育館で合宿練習を行いました。仙台大学卓球部監督として、その公式練習を参観しました。

卓球女子は、ロンドン・オリンピックでは女子団体の決勝で中国に敗れたものの、日本卓球史上初となる銀メダルを獲得しており、リオ・オリンピックでのメダル獲得に向けて、今回合宿では、中国や韓国等のライバルの戦型を想定したダブルスの練習が行われました。練習後の宿泊先ホテルでは、福原愛選手と、中国における長期練習滞在の際の遼寧省チーム（私のかつての所属チーム）の話や、卓球男子日本代表のフィジカルコーチである仙台大学OBの田中礼人さんのこと等について、流暢な中国語で語り合うことができました。そして、最後に、リオ五輪出場に向けた意気込みを色紙に書いて仙台大学に贈呈して頂きました。

〈報告：馬 佳濛 講師〉



(上) 福原愛選手からのサイン色紙
(左) 色紙にサインをする福原愛選手

男子サッカー部と男子バスケットボール部が学長へ活動報告

<仙台大学広報室>

第17回東北地区大学サッカー選手権大会 優勝を学長に報告
平成28年7月5日(日)@学長室



阿部学長に優勝を報告する男子サッカー部の選手とスタッフ

<仙台大学広報室>

男子バスケットボール部
平成28年度東北地区大学体育大会優勝を学長に報告

平成28年7月6日(水)@学長室



阿部学長(右から2番目)に優勝を報告する男子バスケットボール部の中村主持(左から2番目)とスタッフ



繁田 秀斗 主持
体育学科4年
埼玉県与野高校出身

「東北大会では他大学を圧倒する戦いことができました。全国大会でも自分たちのサッカーで
“頂点”を目指して頑張ります」



中村 優斗 キャプテン
現代武道学科4年
宮城・明成高校出身

「9月・10月に開催される東北リーグで必ず優勝してインカレ出場の切符を勝ち取り、インカレでの勝利を目指します！」